



4月10日の開通を控え、整備が進められる料金所。JH仕様を簡略化し、中央のレーンを双方向にした3レーンが特徴。

秋田自動車道の構造と 西仙北町の位置関係

秋田県のほぼ真ん中に位置し、東西に長い町の中央部をJR奥羽本線 国道13号線が縦貫する西仙北町。市街地と雄物川を挟んで反対側には秋田自動車道が走っており、同自動車道では県内で唯一のサービスエリアとなる「西仙北SA」が設置されています。西仙北町から秋田自動車道を利用する場合、これまでは秋田寄りの協和ICか、北上寄りの大曲ICを利用しなければなりません。協和（大曲間の距離は全国平均の10.7kmを大きく上回る23.9km、町を高速道路が通過しているにもかかわらず、利用するためにはアクセス道も含めると協和ICまで13km、大曲ICまでは20kmもの

移動を要します。

このため、開通後地域住民から秋田自動車道の利用促進等について強い要望が出されるなど、気運が高まってきました。そこで、平成8年5月、西仙北町を中心とし、周辺6市町村（大曲市・角館町・中仙町・協和町・神岡町・南外村）により、「西仙北IC建設促進協議会」を設立、関係機関に対し要望活動を開始しました。しかし、当時の追加ICは都市開発事業や工業団地開発事業を伴つ「開発IC」方式しか認められておらず、建設費も事業者に40～50億円もの負担を強いるもので、同町にとって実現は困難な状況でした。

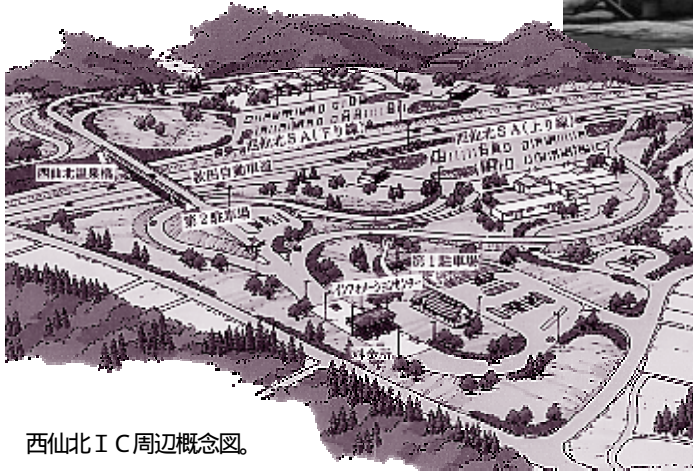
インター設置に向けた地道な調査と運動

そこで同年6月、大村虔一

平成3年の秋田自動車道供用開始から11年。高速道路の利活用が話題となる中、地域の利便性向上と活性化への期待、さらには同様の境遇を持つ多くの自治体の注目を受け、新方式によるインターチェンジが間もなく本県に開通します。

全国初、サービスエリア併設型インターの実現（西仙北町）

インフォメーションセンター「ぬく森プラザ」。既存のSAの施設と競合しないよう、周辺の観光情報提供や休憩所を設けている。



西仙北IC周辺概念図。

東北大学教授を委員長に「西仙北広域圏開発構想基礎調査」を実施。協和ICから7.4km、大曲ICから16.5kmの位置にある既存のSAを活用した簡易ICの建設による振興策を提案しました。また、平成9年度には清水浩志郎秋田大学教授を委員長に「西仙北IC設置に関する検討委員会」を設置し、既存のSAに併設した場合、「IC建設費用の安価に加え、周辺の町有地活用で用地取得が不要なこと、既存のアクセス道利用により雄物川橋梁建設が不要なこと、平坦地のため建

設費用を抑制できることなど設置場所として最適」であるとの結論を導き出しました。これらに基づき、「併設型IC」に関する各種図面・資料等が作成され、関係機関に対する要望活動もまた、より具体性を帯びてきました。

活用施設実現へのきつかけとなった「法改正」

こつした中、平成10年9月、高速自動車国道法が改正され、民間集客施設と高速道路との連結が可能となりました。同町ではこれに沿った形で計画を変更。「SA周辺地域の情報を提供するインフォメーションセンターを設置して、秋田自動車道と連結する」という手法で申請し、日本道路公団より11年10月に連結許可が下りました。

この段階では「閉鎖型」と呼ばれる活用施設の状態です。本線から引込み線で連結はするものの、上下線間の行き来や一般道との出入りはできないもの。これにICを設置し一般道と連結する「開放型」とするには、「国土開発幹線自動車道建設審議会」による承認が必要でしたが、無事同

年12月、整備計画の変更が承認されました。そして翌年3月には連結候補者に選定され、10月に建設大臣から連結許可が下りたことで、念願のIC建設が可能となりました。

こつして、多額の費用と長い工期が必要な通常のIC建設に対し、短期間で低い経費により、全国で初めてのSA併設型「西仙北IC」建設が実現しました。このことは、SA等を抱えながらIC設置を希望する全国の市町村にとつて注目すべき事例となり、同町には現時点で70を超える自治体関係者の視察があります。

「まちづくりへ生かす」という今後の課題

町が負担した西仙北ICの総事業費は約8億8千万円。運営は日本道路公団ではなく、同町が出資している「ぬく森温泉ユメリア」を運営する第3セクター、西仙北温泉インター（株）が行います。公団からの収益がないため、運営コストを抑える目的で利用時間を午前6時～午後10時に制限しています。西仙北町役場まで約4kmと、前後のIC

と比較し市街地及び国道13号線に接近しているという利点もあります。

町では4月10日の開通を控えた今年1月、「西仙北IC利活用フォーラム」を開催。観光や産業振興等の拠点としてIC機能をどう展開していくかを探るなど、周辺住民や事業者等を巻き込んで、開通後の活性化策を提案し始めています。道路行政のみならず、国の制度に影響を与えた取り組みとして全国自治体に指針を示した西仙北町。今後はIC開通後のまちづくりが課題となるとともに、その取り組みがさらに注目を集めることになりそうです。



ICから車で5分の「ぬく森温泉ユメリア」。強首温泉郷もICの目と鼻の先にある。